修了時アンケートと修了後の活動から見る 教育・学修支援専門職能開発を目的とした履修証明プログラムの実際

Evaluation of the certificate program for the professional development of educational and learning support based on the results of questionnaire survey for program completers and their activities

○我妻　鉄也[1]・岡田　聡志[1]・白川　優治[1]・佐々木　智穂[2]・堀井　祐子[2]・竹内　比呂也[1]
（[1]千葉大学，[2]千葉大学・非会員）

研究の背景と目的

- 「学修者本位の教育への転換」の必要性が提起され、大学における教育・学修支援の充実が求められている。
- 千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、各種調査に基づき、教育・学修支援に求められる大学職員の資質・能力と専門性を明らかにするとともに、「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（試案）」を作成。
- 「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（試案）」に対応する形で、2017年に「ALPS履修証明プログラム」を構築・開設し、教育・学修支援の専門職能開発を行う。
- 本研究は、当該プログラムの第1期生の修了に伴い、2019年に実施した修了時アンケート調査と修了後の活動状況に基づき、教育・学修支援の専門職能開発を目的とした履修証明プログラムの効果や実施方法の妥当性を検証し、履修証明プログラムとしての可能性を明らかにすることを目的とする。

教育・学修支援に必要な能力ルーブリック（試案）

領域	項目（各領域で含む要素を例示的に示したもの）	S（知識やスキルを発展させ、指導することができる）	A（知識やスキルを実践的な場の問題解決に応用できる）	B（身に付けた知識を説明できる）	C（知識として身に付けている）
①学生・学修・教育支援の内容	・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の内容の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学生支援の現状理解	学生の支援ニーズを調査し、学習者のニーズにあわせた学修支援を開発し、効果的に実施することができる。様々な教育領域の教育上の最新の改善課題、論点、教育方法を把握し、個別の授業ニーズにあわせた教育支援に活用することができる。そして、学修支援・教育支援の結果を検証し、評価、改善することができる。	個々の学生に応じた支援内容・方法を選定し、必要な支援を設計、提案することができる。また、所属大学全体の教育課程の概要を理解した上で、学内外の先進的な取り組み事例を参考に、個別の授業に対して教育支援を具体的に提案することができる。	学修支援に必要な教育領域における最新の改善課題、論点、教育方法を説明することができる。また、学生の多様性を理解し、個々人の学習上の課題を踏まえた支援を説明することができる。	教育支援や学修支援の担当者に必要な法令遵守の意識、倫理観を身に付けている。また、学修支援に必要な教育課程の基本的枠組みと個々の授業が扱っている教育内容の概要を理解している。
②担当業務の内容	・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用	所属箇所における課題を発見し、改善することを目的に、課題設定、データ収集・分析、対応策の立案、実施を自律的に実現することができる。担当業務に関連する新たな取り組みを企画立案し、周囲の協力を得て、実行することができる。	学内外の先進的な取り組み事例を参考にし、自分の担当業務に応用することができる。また、自分の業務に関連する情報、データを収集し、整理、分析した上で、業務上の課題について解決策や改善策を提案することができる。	学内外の最新動向・情報を収集し、担当業務との関連性を説明することができる。また、自分の業務について予算の現付けや会計上の位置づけを説明することができる。これまでの業務内外の経験を現在の担当業務に活かしており、その関連性を説明することができる。	大学における担当業務を行うために必要な知識を有している。また、学生や教育に関する情報の収集、整理、保管に関する法令や規則、倫理を理解している。
③大学についての知識	・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解	高等教育の現状について批判的に分析・検討し、所属大学における教育のあり方について具体的な改善策を策定し、実践の場で提案することができる。	高等教育を取り巻く社会・経済情勢や政策動向などから、所属大学の教育の現状について批判的に分析・検討し、組織上の構造的な問題を特定し、解決策や改善策を提示することができる。	大学で教育研究されている学問領域全体の体系性や内容、構造についての理解に基づき、所属大学の教育の特徴や個々の施策・規則の意義や課題について説明することができる。	国内外の大学に関する歴史や制度、法規、政策、取り巻く環境などについて基本的な理解を示すとともに、その中で所属大学の現状や特色、位置づけを把握している。また、カリキュラム論や発達理論などの教育や学生に関わる一般的な知識を有している。
④学生への対応	・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応	学生の対応に関わる学内外の利用可能な資源の現状について批判的に分析・検討を行い、より効果的な支援の体制・あり方を、実現可能性を含めて、企画・設計し、機関するなど、学生の対応について指導的役割を果たすことができる。	学生への対応に関して、国内外の様々な事例を参照・理解し、それらの事例を批判的に検討したうえで、個別の事例に適用して実践に利用することができる。問題解決のために、学内外の利用可能な資源を活用し、効果的に対応することができる。	アドバイジングやカウンセリング、コーチングに関する技術を応用し、留学生を含む多様な学生への効果的なコミュニケーションのあり方について説明することができる。また、所属大学における保護者との関わり方や医療機関等の学内外の利用可能な資源の現状について説明することができる。	現代の学生・若者をめぐる状況や課題を理解し、キャリアやハラスメントなど、学生が入学してから卒業するまでにどのような困難や課題を抱えるかについて理解している。また、問題行動を起こした学生への対応について把握している。発達障害やメンタルヘルスなどに関する困難を抱えた学生の対応や支援についての知識を有している。
⑤担当業務への取り組み方	・担当業務の遂行 ・チームワーク	学内外の組織横断的な、あるいは困難な担当業務について先を見通した計画を立て、主導的に実行することができる。さらに、協働して業務を行うことの強みを活かして、高い成果を生み出すことができる。	担当業務を遂行するにあたり、率先して取り組むとともに、協働する他者の強みや弱みなどの特性を把握し、業務への自他のモチベーションを高めるなど、チームを活性化し、業務の効率と効果を高めることができる。	担当業務の意義や大学全体から見た役割を理解しており、職務に対して意欲的に取り組むことができる。チームで業務を進めるにあたり、自分の考えを伝えつつ、他者との合意形成を図り、協調的に業務を推進することができる。	所属大学の方針や業務の流れを把握し、正確に業務を行うため、自分で調べたり、必要に応じて関係者に確認することの重要性を理解している。また業務で困難が生じた場合は、周りに助けを求めることができるなど、チームワークを意識して業務を遂行することができる。
⑥人間関係の構築	・人的ネットワーク ・教員との連携・協働	勉強会・シンポジウム等の参加や情報交換の機会を利用し、学内外に幅広い人的ネットワークを形成している。また、学内外の人的ネットワークを活用し、様々な情報を収集し、所属大学の業務改善・開発に生かすことができる。	学内に人的ネットワークを形成し、必要に応じて、関係する教員や他部所の職員等と連携を図り、調整しながら職務をやり遂げることができる。また、どのような関係者と協働すれば効果的に業務が遂行できるか把握している。	大学教員の仕事や役割についての理解に基づき、業務で関わる教員の特性を把握し、他部所の職員等との連携を含めて、協働する体制を構築するための働き掛けを行うことができる。	担当業務以外の業務や学内の取り組みについて関心を持ち、所属大学内の他部所の職員と関わる機会に積極的に参加するなど、開かれた態度や行動を示す。

アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム（ALPS履修証明プログラム）

ALPS履修証明プログラム

- 教育・学修支援の専門性を高めるための体系的な研修プログラムとして、2016年度の試行（3テーマ）を経て、2017年度から履修証明プログラムの本格実施。
- 「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック」の6領域に対応するかたちで、15テーマを設定し、各テーマ8時間、全体で120 時間以上の研修プログラム。
- **プログラム全体としては「能力ルーブリック」のA段階まで到達することを目標に設計。**
- 全てのテーマの受講者に対しては、学校教育法第105条に基づく履修証明書を発行。
- 2019年3月に初の修了生25名を輩出。

表 1. ALPS履修証明プログラム カリキュラムマップ

各コースが、ルーブリックの各領域のS・A・B・Cの段階のどこに対応するかを示したもの

能力ルーブリックの領域	1 高等教育政策と自校理解	2 カリキュラム理解	3 学生の抱える困難の理解と支援	4 コミュニケーションとカウンセリングの基礎	5 高等教育の国際化対応	6 教育IR入門・教育データの分析と活用	7 教育のICT化と教材開発支援	8 学修支援とアカデミック・アドバイジング	9 教育方法・教育評価	10 学生・学修に対する理解	11 ラーニングコモンズの運営	12 教育・学修支援マネジメント（1）	13 教育・学修支援マネジメント（2）	14 プロジェクト研究・実習（1）	15 プロジェクト研究・実習（2）
①学生・学修・教育支援の内容 ・教育内容の把握 ・学生・学修・教育支援の設計と実施 ・学生・学修・教育支援活動のプログラム改善 ・学生・学生支援の現状理解	C	B	C	C	C	B	B	B	B	B	B	C	B	A	A
②担当業務の内容 ・課題の設定と問題解決 ・情報収集・整理・分析・発信 ・業務に関する知識 ・様々な経験とその活用	—	—	C	—	—	B	C	—	—	C	—	C	B	A	A
③大学についての知識 ・高等教育・社会・教育に関する知識 ・所属大学についての理解	C	B	—	—	C	C	B	C	B	C	—	C	B	A	A
④学生への対応 ・学生対応への基本的姿勢・態度 ・留学生への対応 ・困難を抱えた学生への対応	—	C	B	B	B	—	—	B	—	B	B	C	B	A	A
⑤担当業務への取り組み方 ・担当業務の遂行 ・チームワーク	—	—	C	B	—	—	—	C	—	C	C	C	B	A	A
⑥人間関係の構築 ・人的ネットワーク ・教員との連携・協働	C	—	C	B	—	—	C	C	C	C	B	C	B	A	A

【基盤的テーマ】
教育・学修支援の専門性を高めるために共通に修得する内容

【総合的テーマ】
教育・学修支援を実践するための手法を修得する内容（グループワーク形式）

【総括的テーマ】
教育・学修支援を推進するための具体的な課題解決を企画・実践する内容

プログラム修了後の修了生による活動

図 1. CEREAL基本構想図

修了生団体（CEREAL）
- 2019年発足
- 同窓会組織/教育・学修支援専門職団体（構想中）
- アニュアル・ミーティング開催

CEREAL代表を「教育・学修支援専門職養成部門運営委員会」委員に委嘱

対面授業時には「教育・学修支援マネジメント（1）」グループワークにて助言

- 大学院進学者
- 大学職員から大学教員へキャリアチェンジ

教育・学修支援専門職能開発を目的とした履修証明プログラムの効果及び実施方法の妥当性

調査概要

- 調査目的：ALPS履修証明プログラムの改善及びプログラムとしての成果や効果などの検証・研究のため、履修証明プログラムの履修後の満足度や自己認識、運営の在り方に対する意見を把握するため。
- 調査期間：2019年5月～2019年7月
- 調査対象：ALPS履修証明プログラム 第1期修了者 25名
- 調査方法：郵送法による自記式アンケート調査
- 有効回答率: 76%（n=19）
- 設問項目：
  1. ALPS履修証明プログラムに関する評価
  2. 「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（試案）」で設定した6領域の到達度に関する自己評価
  3. 仕事の進め方、教育や学生に対する行動や認識

  ⇒5段階評定尺度により回答

調査結果

表 2. ALPS履修証明プログラムに関する修了生による評価　（N=19）（平均値を除き%）

	平均値	5: そう思う	4: ある程度そう思う	3: どちらともいえない	2: あまりそう思わない	1: そう思わない
ALPS履修証明プログラムの内容は期待に沿うものだった	4.28	44.4	44.4	5.6	5.6	0.0
総合的にALPS履修証明プログラムを履修して満足している	4.61	66.7	27.8	5.6	0.0	0.0

表 3.「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（試案）で設定した6領域の到達度　（N=19）（平均値を除き%）

領域	平均値	5: Sの段階	4: Aの段階	3: Bの段階	2: Cの段階	1: Cの段階に至っていない
学生・学修・教育支援の内容	3.37	5.3	42.1	36.8	15.8	0.0
担当業務の内容	4.05	26.3	52.6	21.1	0.0	0.0
大学についての知識	3.53	10.5	36.8	47.4	5.3	0.0
学生への対応	3.37	5.3	47.4	31.6	10.5	5.3
担当業務への取り組み方	3.89	21.1	47.4	31.6	0.0	0.0
人間関係の構築	4.05	26.3	52.6	21.1	0.0	0.0

表 4. 仕事の進め方、教育や学生に対する行動や認識の変化 †p< .1 *p< .05

	N	履修開始前平均値	修了時平均値	履修開始前標準偏差	修了時標準偏差	t値	効果量d
高等教育の制度や歴史を理解している	17	3.12	4.06	1.11	0.56	−4.315*	1.05
相手の立場で考えることを意識している	17	4.53	4.59	0.51	0.62	−0.368	0.09
学生の学習や発達ついての専門的な知識に関心がある	17	4.41	4.12	0.94	1.17	1.768†	0.43
リーダーシップを発揮する	17	3.65	3.53	0.79	0.80	0.808	0.20
他者の話を丁寧に聞く	17	4.29	4.12	0.77	0.78	1.376	0.33
学校教育法や大学設置基準等の関連法規を理解している	17	2.82	3.41	1.19	0.87	−2.416*	0.59
学内の他部局の仕事に関心を持っている	17	4.29	4.29	0.85	0.85	0.000	0.00
様々な教育方法に関心がある	17	4.65	4.24	0.61	1.03	2.384*	0.58
新しい企画・提案をする	17	3.88	4.41	1.11	0.62	−2.729*	0.66
他部署との交流を積極的に行っている	17	3.65	3.76	0.93	1.03	−0.356	0.09

考察

- ALPS履修証明プログラムの総合的な満足度を問う設問の平均値は4.61であることから、履修生の期待に沿う内容を提供されたと考えられる。
- 「教育・学修支援の専門性に必要な能力ルーブリック（試案）」に基づく修了生の自己評価では、6項目中5項目において、プログラム全体の到達目標であるA段階が最頻値であることから、プログラム設計の妥当性が確認された。
- 「仕事の進め方、教育や学生に対する行動や認識の変化」を問う設問に関しては、履修開始前と修了時において、3項目について行動や認識の変化があったことが確認された。この中でも「新しい企画・提案をする」という項目に関して、変化が確認された。
- 前述の「行動や認識の変化」に関する調査に加え、修了生は「能力ルーブリック」の到達度に関する自己評価で、「担当業務の企画・提案」に関わる能力を身につけたと評価しており、企画・立案に対して、積極的になったことが示唆される。

アカデミック・リンク 教育・学修支援専門職養成プログラム
ACADEMIC LINK PROFESSIONAL STAFF DEVELOPMENT PROGRAM for EDUCATIONAL and LEARNING SUPPORT